

天草の未来を担う子どもたちからの メッセージ



天草市立有明中学校
3年 松崎 愛さん

私たちの学校では、二年間にわたり「こどもたちによるいじめ未然防止に向けての取り組み」を行ってきました。いじめを早期に発見・解決するために、

生徒会執行部を中心に各委員会が自分たちができる取り組みを考え、自主的に実践してきました。

例えば、執行部は、生徒会主催のレクリエーションや挨拶運動を企画しました。チームを縦割り班にすることで、学年の枠を超えて笑顔あふれる交流となり、立ち止まって大きな声で挨拶する姿が学校のあちこちで見られるようになりました。

平成29年度は、平成28年度の実践をもとに、もっともつとよい学校を、そして、生徒一人ひとりが輝く学校を創っていきたいと思います。そのために、私たち一人ひとりが、かけがえのない自分、かけがえのない友達を尊重し認め合いながら生活していきたいと思っています。



天草市立倉岳中学校
3年 山道 晴菜さん

て行ってしまったため、若者がどんどん減っているのが現状です。大学卒業後、天草で生活したいと思っても働く場所がなければ帰ってくることはできません。

私が天草市に対して望むことは、天草市を活性化させ若者の人口を増やすことです。今、天草市に住む若者は、高校進学、もしくは卒業後に天草市から出

また、天草市の良さをアピールし、観光客を増やして、ここに住んでみたいと思ってもらえるような取り組みも行ってほしいです。少子高齢化となった今の天草市を改善し、さらにより

よい天草市となるよう、今までにない大胆な政策を考え、活性化につなげてほしいです。そして天草の自然や人の温かさを多くのの人々に知ってほしいです。



編集後記

少子化、待機児童などが問題視される今日、時代とともに子どもを育てる環境も変化してきました。

これは、明治の初めに日本にきたヨーロッパの商人の話です。

日本人の子育てを見て驚いたそうです。母親が子どもを背負い、畑仕事や家事をやっている。また、ある時は上の兄や姉が弟や妹をおんぶして遊んだり、家の手伝いをやっている。常に子どもを肌身離さず育てている。当時のヨーロッパでは、昼間はベビーカー、夜はベビーベッドで、泣いてもすぐに抱けば抱き癖が付くから抱かないという習慣でした。

日本人のように子どもを大切に育てる人種は見たことが無い。そう語ったそうです。古き良き時代の子育てに学ぶことも多いようです。



天草市議会広報広聴委員会

柴田 誠

濱洲 大心

副委員長
蓮池 良正

委員長
濱洲 大心

宮下 幸一郎

下田 昇一郎